

# 「総合的な学習の時間」の学習効果の分析

下村 勉\*・小山 史己\*\*・白井 靖敏\*\*\*  
鷺尾 敦\*\*\*\*・須曾野仁志\*・落合 英次\*\*\*\*\*

「総合的な学習の時間」が新設され、小中学校では平成14年度から、高等学校では平成15年度から実施されている。この授業の成果を実証するために、小学校から高等学校における児童・生徒を対象に、「総合的な学習の時間」の学習効果についてアンケート調査を実施した。その結果、とくに「総合的な学習の時間」のねらいとしては明示されていない「友達と協力して学習すること」が、いずれの校種においても達成度が高いことや、小・中・高での成果の違いなど興味深い結果が得られた。

キーワード：総合的な学習の時間、データ分析、教育測定、学習効果、学校教育

## 1 はじめに

学習指導要領の改訂に伴い「総合的な学習の時間」が新設され、小中学校では平成14年度から、高等学校では平成15年度から実施されている。「総合的な学習の時間」は、趣旨とねらいのみが提示され、教科書はなく、カリキュラムや具体的な内容はそれぞれの学校にまかされている点が大きな特徴である。移行期間から積極的に実施している学校がある一方、授業の「趣旨とねらい」だけしか提示されていないことから生じる準備の負担増大、教育効果についての疑問、および「学力低下論」等から、実施に消極的あるいは否定的な状況も生じている。しかし、このような議論も十分な根拠となる実証的なデータがなくて行われているのが現状である。

そこで、学校現場での実践事例をもとに、「総合的な学習の時間」を実施した成果と課題を検証し、発展・充実の方向性を示すことを目的として、大学の研究者、教育委員会、研究協力校（小・中・高・養護、10校）からなる共同研究プロジェクトが発足した。

研究プロジェクトでは、3つのグループでのテーマ別検討、協力校での実践事例、アンケートによる分析などを行った<sup>1)</sup>。本稿では、アンケートに基づく「総合的な学習の時間」の成果について、その後得られたデータも加えて報告する。

## 2 アンケート調査の目的と方法

「総合的な学習の時間」に関わって、児童生徒の実態把握と成果の検証を目的に、協力校10校（小学校3校、

中学校3校、高等学校3校、養護学校1校）に対して、アンケート調査を2003年の9月、12月、翌年3月の3回にわたって実施した。対象の児童生徒は、約1100名である。「総合的な学習の時間」の成果と考えられる各項目に対して、小学校では、「はい」「ややはい」「ややいいえ」「いいえ」の4段階で、中学生・高校生は「とても」を加えた6段階で自己評価データを収集した。

質門項目は、まず、「総合的な学習の時間」のねらいに関連したものを共同研究者が原案作成し、協力校の先生の意見によって表現等を修正し、児童生徒にとって適切なアンケートになるように配慮した。質門項目は計24項目を作成したが、最初の16項目を必須とし、他の項目は学校の活動内容にそぐわない場合は、答えなくてもよいことにした。

また、分析の参考にするため、協力校の担当教師に対して、児童生徒へのアンケートと同じ時期に、「下記の質問項目に対して現時点で何%の生徒が肯定的な回答をしたと思われますか。」と現状の推測値をたずねた。初回（9月）では教師の期待値（目標値）についても回答してもらった。

さらに2回目（12月）のアンケートでは、児童生徒に対して、「総合的な学習の時間」についてのよかった点、印象に残った点、今後への希望・提案を自由記述で採取した。

## 3 アンケートの結果と考察

### 3.1 アンケート結果

まず、校種ごとに各質問項目に対する肯定度をグラフ化した。図1～図3は、それぞれ小学校、中学校、高等学校における児童生徒の肯定度の結果である（共通の16項目）。肯定度とは、各質問項目に対して、「はい」「ややはい」など肯定的に答えた割合であり、ここでは

\* 三重大学教育学部附属教育実践総合センター  
\*\* 三重大学大学院教育学研究科  
\*\*\* 名古屋女子大学家政学科  
\*\*\*\* 高田短期大学オフィス情報学科  
\*\*\*\*\* 三重県教育委員会事務局

「達成度」と解釈することができる。なお、質問項目は、第3回目の肯定度の高いものから低い順に並べ替えてあるので、左の項目ほど達成度が高いことを意味する。

達成度を比較するために、小・中・高の校種ごとに達成度の高かった上位3項目を取り出したものが表1である。また、1回目から3回目の肯定度の推移（達成度の変化）が大きかった上位3項目を取り出したものが表2である。

さらに、児童生徒の達成度（12月時点）と、教師の

期待値・推測値（12月時点）とを比較するために重ね合わせて表示したものが、図4～図5である。ここで中学校の結果は、小学校と高等学校の結果の中間に位置づいていたので、本稿では省略する。

自由記述については、表3にまとめた。

### 3. 2 校種別の肯定度の検討

図1～図3、表1～表2から得られた結果をまとめると次のようになる。

表1 肯定度が高い上位3項目（共通項目中、2004. 3時点）

	第1位	第2位	第3位
小学校	7. 友達と協力して学習できたか	10. 新しいことがわかったか	11. 調べたことをまとめることができたか
中学校	1. 総合的な学習は楽しいか	7. 友達と協力して学習できたか	11. 調べたことをまとめることができたか
高等学校	7. 友達と協力して学習できたか	8. 自分で考えることができましたか	2. 日頃から疑問に思うことは多いか

表2 肯定度の推移が高い上位3項目（共通項目中、2004. 3時点）

	第1位	第2位	第3位
小学校	15. 他の授業で役立てることができたか	14. 総合的な学習で役立てることができたか	12. 学習成果を発表できたか
中学校	12. 学習成果を発表できたか	13. 質問や感想を表現できたか	11. 調べたことをまとめることができたか
高等学校	13. 質問や感想を表現できたか	12. 学習成果を発表できたか	7. 協力して学習できたか

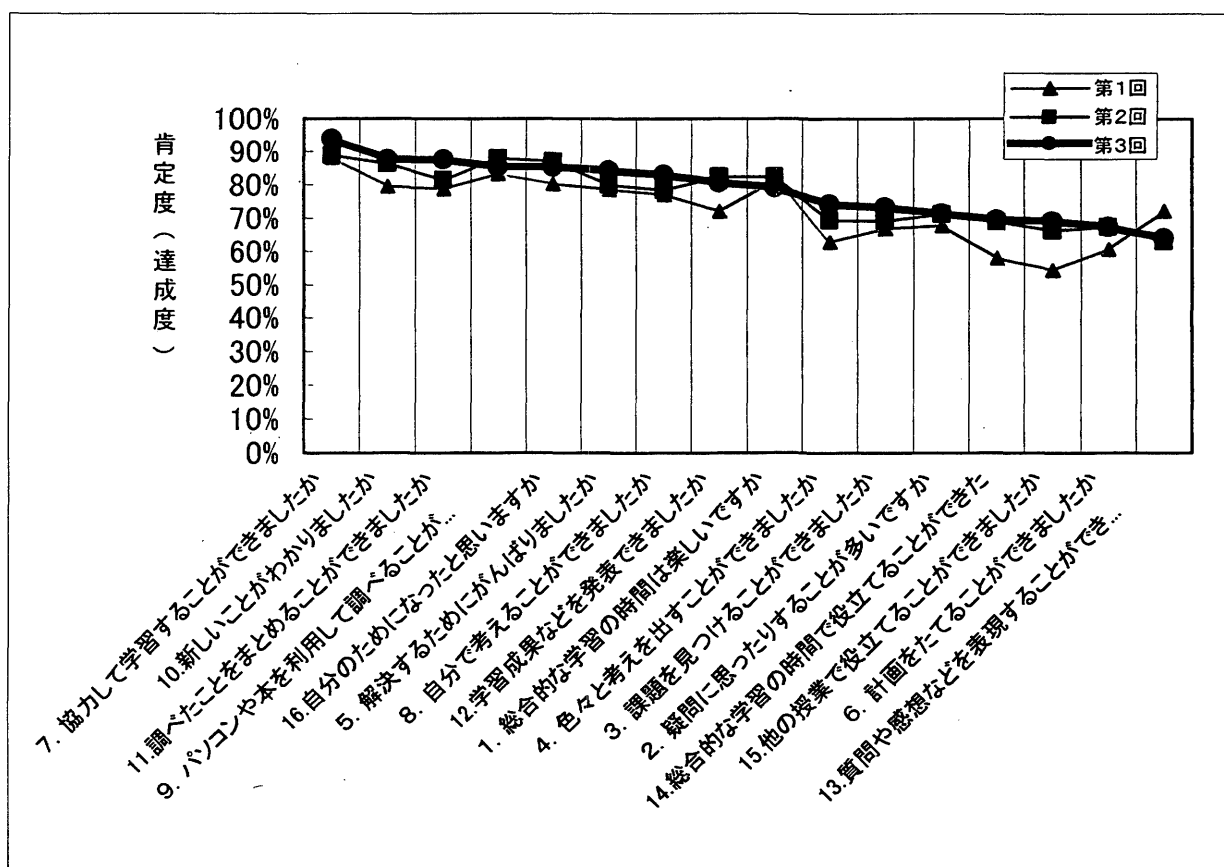


図1 小学校児童における肯定度（達成度）とその推移

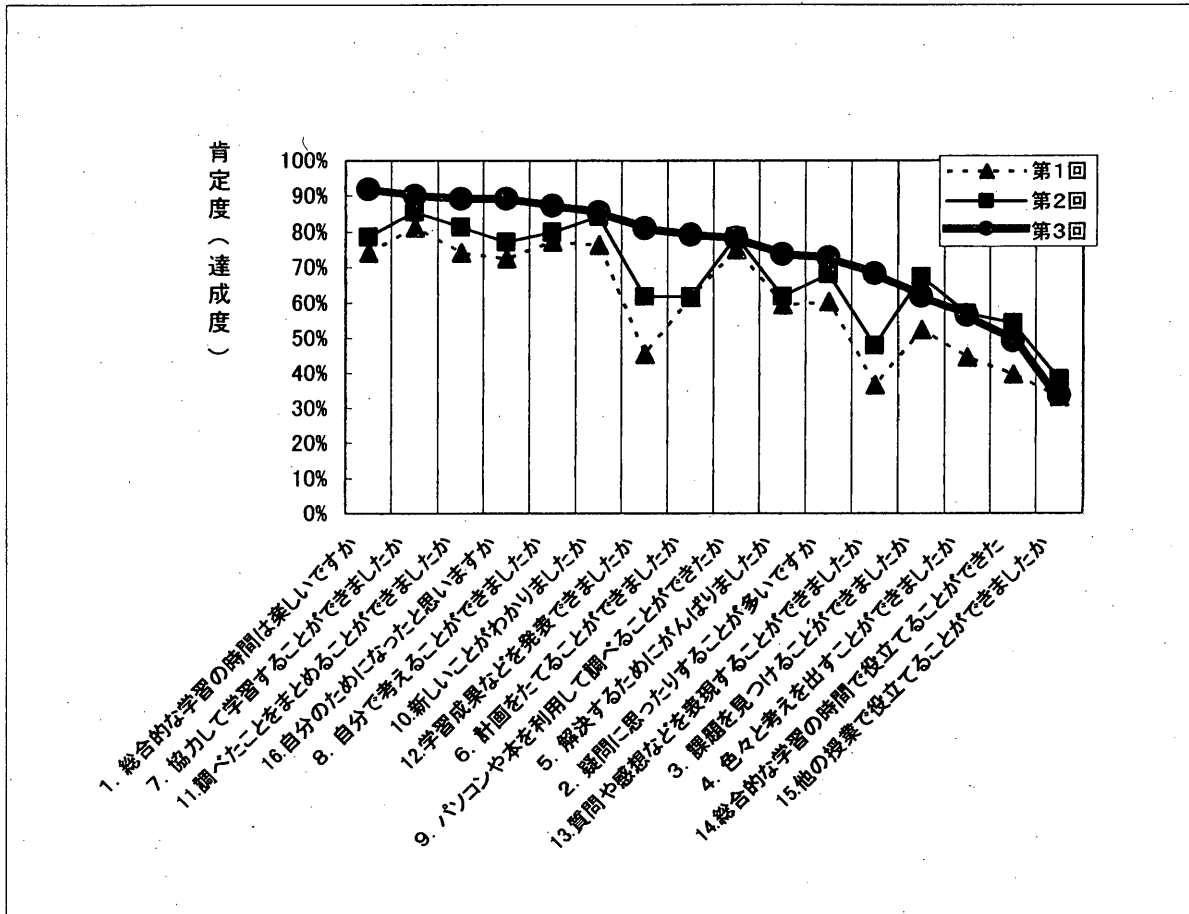


図2 中学校生徒における肯定度 (達成度) とその推移

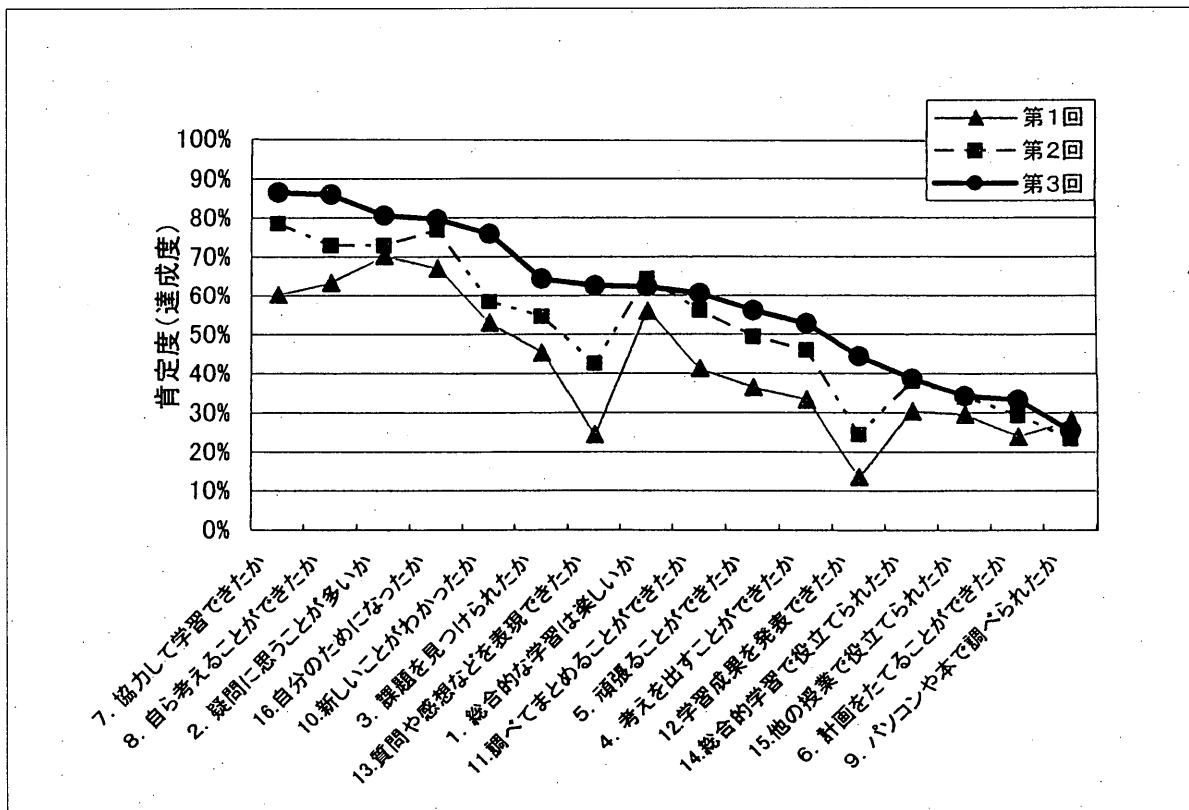


図3 高等学校生徒における肯定度 (達成度) とその推移

- (1) すべての校種において、ほとんどの項目で、肯定度は増加しており、学習成果を確認できる。伸びの大きさは、高等学校、中学校、小学校の順である。小学校では、元々の肯定度が高いので、その伸びは小さいといえよう。
- (2) 肯定度が高い項目のなかで、とくに「7. 友達と協力して学習できたか」は、すべての校種で、約90%近くの高い肯定度を示して上位にある。この項目は、「総合的な学習の時間」のねらいとしては明記されていないにもかかわらず、このような高い達成度が得られることは、注目すべきことがらである。
- (3) 推移の大きい項目は、「学習成果を発表できた」「質問や感想を表現できた」であり、学習成果の発表活動が積極的に行われたこと、児童生徒においても、その経験から多くを学んだと感じていることが推察できる。
- (4) 全般的に、肯定度（達成度）は、小学校が最も高く、以下、中学校、高校の順に低い。しかし、このことは、必ずしも高校生の方が小学生よりも実際に達成度が劣っていることを意味しない。高学年になるにつれ、自己評価が過大評価から過小評価になっていく傾向があるからである<sup>2)</sup>。
- (5) 小学校は、パソコンや本を利用して調べ学習が盛んであるが、高等学校では、パソコンやインターネットはあまり利用されていない。
- (6) 高等学校では、将来の進路や職業についての興味関心が高まり、進路学習に力を入れていることの成果がうかがえる。

### 3. 3 教師の期待値・推測値（12月）と生徒の回答結果との比較

教師の期待値・推測値と生徒の実態を重ね合わせたグラフ（図4、図5）から、次のことが読みとれる。

- (1) 小学校では、教師の推測値と生徒の実態（肯定度）とほとんど同じ曲線傾向を示し、両者のズレが少なかった。中学校では、ズレが大きい項目が多く見られた。その場合、教師の推測値の方が小さく、教師が低く見積もる傾向が見られた。高等学校では、すべての項目で、生徒の実態（肯定度）の方が、教師の推測値を大きく上回っており、最もズレが大きいことがわかった。
- (2) 児童生徒の12月値を、教師の期待値と比較すると、小学校ではやや下回り、中学校ではほぼ同レベルにあり、高等学校では、教師の期待値を大幅に超えていることがわかる。
- (3) 中学校で、ズレの大きかった項目は、「総合的な学習の時間は楽しいか」「他の授業で役立てることができたか」「総合的な学習の時間で役立てることができたか」であり、この点での教師の過小評価が顕著である。高等学校においては、ほとんどの項目で、教師の

推測値の方が大きく下回っている。但し、中学校と異なり、「総合的な時間は楽しいか」については最もズレが小さい。

これらの結果は、小学校ではクラス担任制のため、教師は児童と接する時間も多く、実態把握がほぼ正確に出来ているのに対して、中学校・高等学校では教科担任制のため、教師が生徒に接する時間も少なく実態把握が十分でないこと、他教科については理解不足であること、などが理由として考えられる。

### 3. 4 自由記述からの検討

『総合的な学習の時間』で学んだこと、印象に残ったこと、自分のためになったと思うこと」に対する記述では、やはり、実際に体験したことが数多く上げられた。また、それらを通して新たに知ったことや気づいたこと、「パソコンを使って調べたり、発表したりすること」「小論文の書き方」など、新しい方法を覚えたことなどが、よかった点として上げられた。これらの学習が友人との協力や人とのつながりの中で、意識されていることは興味深い。インターンシップや進路学習に取り組んだところでは、「働くことの大変さ・大切さ・責任などを学んだ」、「職業・進路についてよく知ることができた」、「自分の将来について考える機会となった」という記述が多く見られた。ここでも、先輩や友人など人との関わりの中で学んだという記述が見られた。

「総合的な学習の時間」に対する希望・提案については、「体験したことがらをもっと時間をかけてやってみたい」、「別の体験もしてみたい」というものが最も多かった。「パソコンをもっと使いたい」、「もっと交流したい」「グループで話し合いたい」など学習方法についての要望も見られた。高校生では、「インターンシップ先が選べるようになればいい」など、自分の希望に沿ってやりたいという意見があった。

「あなたが好きな授業科目をすべて書いてください（総合含む）」に対しては、小学生では、「総合的な学習の時間」が数多くあげられていたが、中学生、高校生の順に少なくなっていた。「総合的な学習の時間は楽しいですか」に対する肯定度が、小・中・高でそれぞれ80%、70%、65%となっているのに対応している。現状では、学級担任制をとる小学校の方が、「総合的な学習の時間」の展開には適しているといえるのかもしれない。今後、「総合的な学習の時間」を経験するにつれて、やり方（課題解決の方法）がうまくなり、得られる成果に対して満足度や楽しさが増していくことを期待したい。他の教科に見られるように、学年を経るにしたがって「総合嫌い」が増えることのないように留意したい。

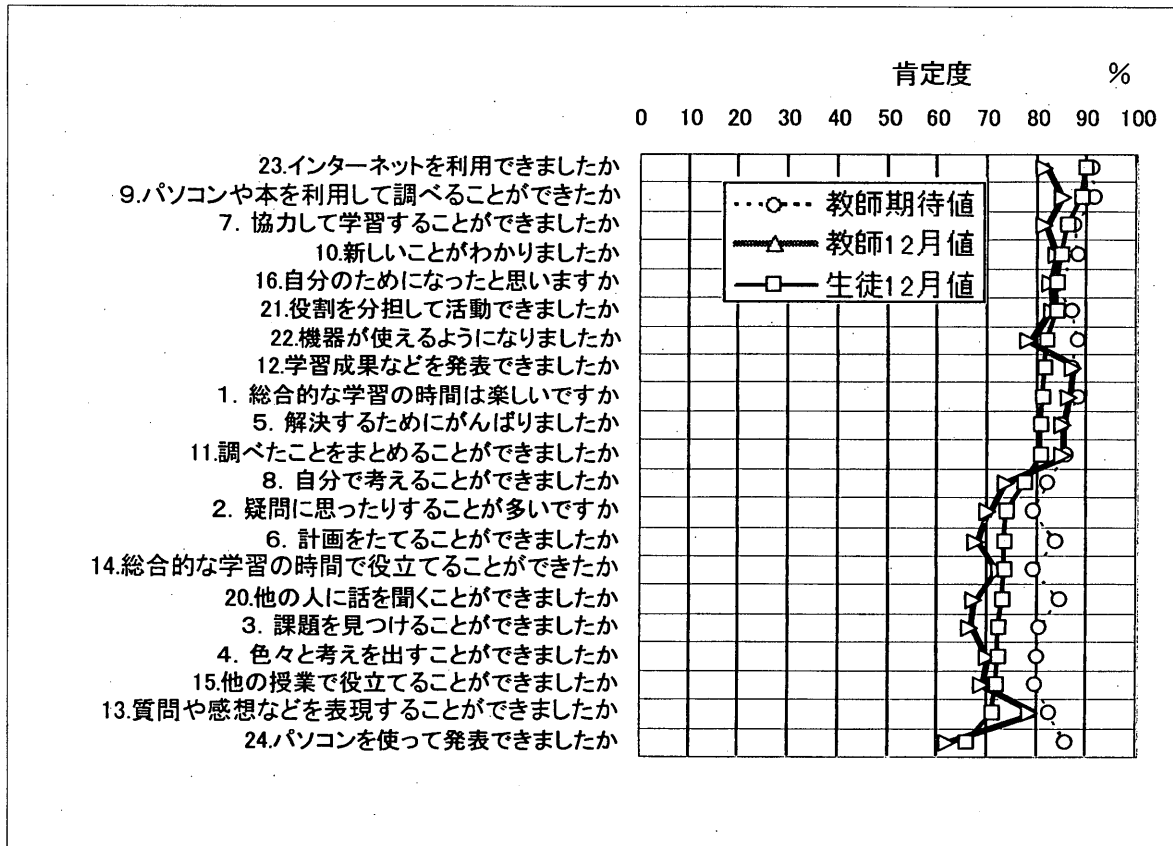


図4 小学校における児童の肯定度と教師の期待値・推定値の比較

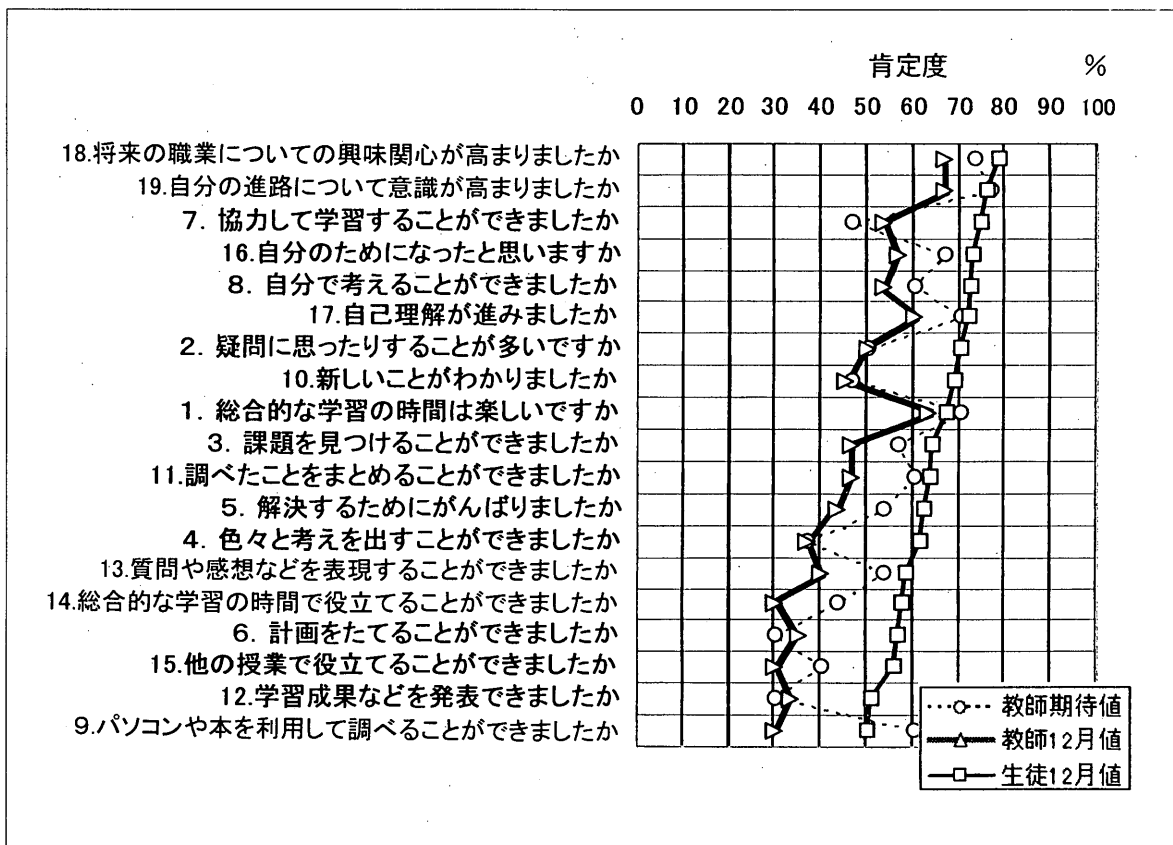


図5 高等学校における生徒の肯定度と教師の期待値・推定値の比較

表3 アンケートの自由記述のまとめ(注 カッコ内の数値は、同様な記述数を示す)

	小 学 校	中 学 校	高 等 学 校
学んだこと・印象に残ったこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フリーマーケットをした(15)</li> <li>・安濃川には魚が結構いた(10)</li> <li>・参宮街道のこと(9)</li> <li>・募金活動をした(9)</li> <li>・工場に行っているような機械を見せてもらったこと(8)</li> <li>・減反についてわかった(8)</li> <li>・田植えや稲刈りのことなどがわかった(7)</li> <li>・お店探険に行ったこと(7)</li> <li>・魚のとり方がわかってためになった(7)</li> <li>・英語を学べたこと(6)</li> <li>・タイピング(ローマ字)が得意になった(6)</li> <li>・パソコン(インターネット)で調べたこと(6)</li> <li>・人権の大切さが分かった(6)</li> <li>・もちつき(5)</li> <li>・いろいろな種類の生物がいた(5)</li> <li>・施設に行って交流した(5)</li> <li>・中の川上流探険に行ったこと(ごみ拾い)(4)</li> <li>・盲導犬に会った(4)</li> <li>・地域の昔を調べて色々なことを知った(4)</li> <li>・稲を育てた体験(4)</li> <li>・焼畑農業が印象に残った(3)</li> <li>・パソコンで新聞を作った(3)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事の大変さ・つらさ(13)</li> <li>・職業体験(9)</li> <li>・将来について考えるようになった(8)</li> <li>・店での礼儀(6)</li> <li>・自分の職業実現のための方法(5)</li> <li>・職場の人の見方の変化(4)</li> <li>・時間を有効に過ごすことが大切だと感じた(3)</li> <li>・共生園、福祉センターなど、いろいろな所に行って話をしたこと(3)</li> <li>・林業の仕事がしたいので山に登っているような事がわかった(2)</li> <li>・人前で発表すること(2)</li> <li>・パソコンを使って発表したことが為になった(2)</li> <li>・パソコンで新しいソフトの使い方を学んで良かった(2)</li> <li>・色々な話が聞いて良かった(2)</li> <li>・自分を見つめ直す機会となった(2)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職業・進路についてよく知ることができた(71)</li> <li>・仕事のむずかしさ、厳しさ、大切さ(38)</li> <li>・自分の将来について考える機会となった(16)</li> <li>・小論文の書き方(14)</li> <li>・自己理解が深まった(14)</li> <li>・米作りを体験したこと(11)</li> <li>・楽しかった、うれしかった(10)</li> <li>・Howdyが面白かった(8)</li> <li>・挨拶やマナー(8)</li> <li>・先輩の話が聞けたのが良かった(5)</li> <li>・職業理解ができて良かった(5)</li> <li>・上級学校のこと(5)</li> <li>・米調理、稲の成長が良かった(4)</li> <li>・将来の勉強になった(4)</li> <li>・幼稚園児との接し方や遊ぶ楽しさがわかった(3)</li> <li>・最後までやり遂げる大切さ、責任の重大さ(3)</li> <li>・様々な物事について考えることが身についた(3)</li> </ul>
総合的な学習への要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間が少なかった(7)</li> <li>・色々なお店のことを知りたい(6)</li> <li>・もっとパソコンの授業をしたい(5)</li> <li>・いろいろな人にふれあいたい(3)</li> <li>・もっと授業時間を増やしてほしい(3)</li> <li>・楽しい(2)</li> <li>・つまらない(2)</li> <li>・施設に行って交流したい(2)</li> <li>・来年も総合学習をしたい(2)</li> <li>・いろいろな国のことをもっと知りたい(2)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パソコンなどを使えるからもっと多くても良い(4)</li> <li>・職業体験の日数を増やしてほしい(2)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップの時間を長くしてほしい、時間が足りない(7)</li> <li>・もっと時間に余裕がほしい(5)</li> <li>・グループでの話し合いがしたい(3)</li> <li>・もっと本当に将来について役立つことを主体的にしてほしい(3)</li> <li>・楽しいと思える内容(3)・もっといろいろな人の話を聞きたい。(2)</li> <li>・もっと楽しめるようにしてほしい。(2)</li> <li>・もっと時間をかけて、準備はが整ってからやりたかった(2)</li> <li>・インターンシップは自分の希望するところへいくべきだと思う(2)</li> <li>・授業でパソコンや本を使う時間がほしい(2)</li> </ul>

#### 4. まとめ

小学校から高等学校にわたる「総合的な学習の時間」の実践による成果をアンケートに基づいて検討した。「ねらい」に関連したほとんどの項目において、すべての校種とも達成度の増加を確認することができた。そして、達成度の高い学習項目を明らかにすることができた。とくに学習指導要領のねらいの中では明示されていない「友達と協力して学習すること」が、どの校種でも達成度が高かったことは興味深く、もっと大きな特徴として積極的に位置づけてもよいのではないだろうか。

今後、「総合的な学習の時間」を充実させるための方

法(ICTの活用など)を検討することが課題である。

最後に、研究に協力いただいた協力校の先生方に感謝する。なお、本稿は、日本教育工学会第20回全国大会において口頭発表したものを加筆修正したものである。

#### 参考文献

- 1) 下村勉、他11名「総合的な学習の時間」の成果と課題についての検証と分析 三重県高等教育機関連絡会議研究報告書 1-123 2004. 3
- 2) 下村勉、織田守矢 統合評価法の実践的検討とその応用, 電子通信学会論文誌A, Vol 64 A, 3, 1981